

問1 富谷・黒川地区は、救急搬送の多くが仙台市内に流入していることや、災害拠点病院の空白地域でもあり、産業集積や住宅地の開発が進む中、住民や事業者の安全安心を支える医療の充実が緊急の課題となっており、総合病院の立地は本地域の持続的な発展と成長に不可欠である。また、県は県立精神医療センターの本院を富谷に、分院を名取に設置するサテライト案を出しているが、全県の精神医療の拠点である県立精神医療センターが富谷に位置することは、本地域を含む仙台医療圏北部や、県北部の利用者の利便性が向上する観点からも、大変歓迎しており、サテライト案は今回の再編を一層進める契機になると期待している。県には、4病院再編を推進し、東北労災病院と県立精神医療センターを合築する新病院の富谷への整備の早期実現を図ることを期待する。

答1

救急や災害医療の観点から、病院再編の意義をお話しいただいたと思います。また、精神医療センターについて、サテライトを含めた体制を関係者と協議しているところであり、様々課題はありますが、お話しいただきました趣旨を実現できるよう、これからも検討してまいります。

問2

- (1) 仙台医療圏北部地域は医療過疎地域で、救急搬送に50分以上かかるが、医療施設が来れば半分以下になるのではないかと考えており、救われない命も救われる。5分、あるいは10分短ければ、こんなに良いことはないので、ぜひ実現してもらいたい。仙台市に医療資源が集中しているが、県全体を考えれば、当然分散し、均等に医療を受けられる状態になるべきだと思っており、その点でこの構想は非常に素晴らしいものだと思っている。
- (2) 医療施設が非常に古いことで、医療の質も落ちてくるのではないかと。しかも病床稼働率は70%ぐらいで、労災や日赤も赤字であり、今後病院も廃れて無くなっていくのではないかと思う。ある県では、建て替えができず、あるいは採算が取れないとのことで、労災病院が無くなったという話も聞いており、そうであれば、新しい施設や機材で、医療施設を整えることで患者も増えるのではないかと思う。特に北部地域は、トヨタをはじめIT産業の立地により非常に人口が増えているが、医療施設が無いということであれば問題があると思うし、今回の計画は素晴らしいものだと非常に感謝をしている。
- (3) 病院再編に伴う不安解消については、積極的に努めていただきたいと思う。病院に勤める職員が通うのが大変になるという問題があるが、その辺は県の方で対応していただきたいと思う。

## 答2

- (1) 救急等について、仙台市と県との間で事務的な協議をしております。県としては、本日説明したように、仙台市も含めて全体で救急の質が向上するということを考えておりますが、仙台市では、例えば今まで救急を運んでいた仙台赤十字病院と、東北労災病院が遠くなることによって、あるいは市内から無くなることで、救急搬送が具体的にどうなるのかといった心配をされるのももっともな意見だと思います。県としては、大きな方向性を整理しながらも具体的なところを見据えて、仙台市の消防、救急搬送も含めた懸念の解消につながるよう議論を進めていきたいと考えております。
- (2) 施設の老朽化や、県外の日赤や労災の病院の再編、統合、廃止があるというのはそのとおりです。それぞれの民間病院の経営内容等に触れますので、県から直接、その内容を今申し上げられないことは御理解いただきたいと思っております。ただ、やはり経営が立ち行かなければ医療の実施もできないので、非常に大きなポイントとして、関係者との協議を進めていくということでございます。
- (3) 様々な不満や不安の解消という点で、病院再編までに5年程度期間があります。患者の皆様や、職員の方々も、できる限り新しい病院に、引き続き前向きに関わっていただけるよう、不安解消に努めていきたいと思っております。

問3 会の冒頭で、富谷市民アンケートで、病院誘致が要望の2番目に来ているという話を富谷市長から頂いた。私も市議会議員としてそういった市民の声をしっかりと拾って、どういう形で実行していかねばならないかという賛成の立場から話をさせていただくが、まず、労災病院には富谷からも黒川地域からも、そして県北地域からも通っている方が大勢いる。また、精神医療センターも同じように富谷、黒川、そして県北の登米、栗原から通っている方も相当数いると伺っている。やはりそういった部分で県全体のバランスを考慮しなければならないというのは、県の大きな役割であり、それを誘致している富谷市の責任も感じると思う。そこで、色々調査等をしている中で、特に精神医療センターに関して反対の声が多いものの、実際は賛成の声も相当数いるということで、意見をまとめて来たので紹介したい。

精神医療センターの移転について、賛成の立場である障害者の方もいることを強く認識してほしい。現に、名取まで通っている患者もいて、移転によって利便性に差が出るのはある意味当然のことであり、期待している人も多くいる。「私たちのことを私たち抜きで決めないで」という定義は、賛成の立場の障害者並びに家族にも同じく認められているはずだ。賛成の立場の障害者が声を上げづらくなっている現状は、それこそ人権侵害につながりかねないような由々しき問題ではないだろうか。精神保健福祉審議会での議論は、反対者側に偏っているように思われる。県全体を見渡し、賛成、反対、両方の立場からどうあるべきかを議論すべきではないか。ぜひ

サテライト案を実行して、富谷だけではなく県全体のバランスを考えた上で、しっかりと進めていってほしいと思う。その責任を、富谷市でしっかりと、そして黒川地域でしっかりと受け止めていきたいと思う。

答3

御指摘がありましたとおり、様々な御懸念、心配の声をこれまでも受け止めてまいりました。元々、県としては名取の精神医療センターが移転するという前提になった場合の、地域の精神医療の体制をどう考えるかといった際に、名取地域を中心とした南の地域は、グループホームの受け皿など、「にも包括」の体制が、県内では一番先進的に整っている地域です。そして国際的にも、日本国内的にも今後の精神医療の見方を考えたときに、入院中心の医療から地域移行中心の精神医療に変わっていくべきだという大きな流れがあります。したがって、そういった受け皿が整っている、今まで蓄積がある名取については、そういう地域を目指して先進的に取り組んでいただいている考えのもと、入院中心といった病院を構えていた形から転換して、地域移行を中心としていくといったことで、最初は、新しくできる仙台赤十字病院とがんセンターが統合する病院の方に精神科の外来機能を設けることで、受け皿にはどうかといった御提案をしました。ところが、様々な御懸念、不安の声を多々受け止めるに当たり、入院機能が地域に必要なだといった声がありました。そういったことを県の方で受け止めて、柔軟に考えて検討し、様々な御意見を伺いながら、一旦は民間の病院を誘致に向けて動いたのですが、様々な事情があり、県立が安心だといったこともありましたので、県立の病院を富谷の本院と名取の分院という2つに分ける形を御提案しているところです。こういった形で、南の方にもある程度入院機能を置きながら、しっかりと受け止めていけるような形を、北と南で体制を構築し、バランスの取れた精神医療を目指してまいりたいと思っておりますので、そういった賛成の声があるということについては、ありがたく受け止めたいと思いますし、賛否両論の形をどのようにして受け止めてやっていくか、このサテライト案という形でお応えできるように検討してまいります。

問4

- (1) 県立精神医療センターの合築について、他害のおそれのある方の、例えば措置入院の患者の方などが入院されている病院が、小学校や小さいお子さんがいる明石台の地域にできるとなると、その地域の方の不安は非常に大きいと思うので、その辺りの対策をどう取っていくのか。
- (2) 名取市に分院をつくることについて、以前、県立精神医療センターの移転を検討していた土地は、買い取れないために断念したという話があったが、先日、その土地の地権者の方の合意が得られたという報道が出ており、名取市にも移転する土地は間違いなくあるにもかかわらず、富谷市ありきで進んでいるのではないか。

- (3) 労災病院と合築して身体合併症のケアをできるというのは確かにそのとおりだと思うが、分院の患者さんが身体合併症であった場合はどうやって診ていくのか。
- (4) 精神科に入院されている方は先生との相性というのが非常に大きいと思う。県南の方で、今県立精神医療センターに通っている患者さんが、例えば今診てもらっている先生が富谷に異動してしまった時に、富谷まで通わないといけないのか。
- (5) 精神保健福祉審議会の件がよくニュースでも出ているが、多分精神科の先生はほとんど皆さん反対されていると思う。その人たちの話をきちんと聞いているのかというのは甚だ疑問に思う。

#### 答4

- (1) 精神医療センターの移転によって、様々な症状を抱える方が入院、通院してくる施設ということに対する御不安かと思えます。現状、名取市の方でも、体制をしっかりと整えて、入院、通院の搬送体制、治療体制についてしっかり対応していることで、大きなトラブルについては、名取市ではあまり聞いておりません。ただ、全国的に見渡して、そういったケースがあるということが御心配の趣旨かと思えますけども、先ほど申しましたように、医療を中心とした、「にも包括」の体制構築や、治療の中身も日進月歩で進んできていることなどを総合的に考えて、病院の運営、経営体制の在り方そのものとして、地域の皆さんの不安につながらないような形の病院を目指してまいります。
- (2) サテライト案に関して、がんセンターの西隣の土地について、以前、用地交渉の関係で一旦断念した土地が、代替わりをして今は売っても良いといった形になったという報道がなされているところですが、まず、その前段として、先ほど説明でも触れた、令和元年に、西側の土地を断念したが、将来的に建て替える時にはどういったことを考えた精神医療センターにしなければいけないかということについて、有識者による「あり方検討会議」の報告書が出ました。身体合併症への対応や、災害時の精神科医療の拠点になるということなど多々ありますが、老朽化が著しいので、早急に建てられる所が第一の条件だということを掲げているところです。がんセンターの西隣の土地は、山林地で非常に急傾斜地のため、造成する場合、年単位で非常に時間がかかることは明白です。木も全部伐採しなければいけませんし、文化財が眠っている土地ということもあり、そういったことを考えると、非常に時間がかかるので、第一に考えるべき老朽化対応について、早急に建て替えられないといったことがあります。また、この土地では、がんセンターは移転することになりますので、身体合併症対応に取り組むのが難しい状況だということもあり、適地としては認め難いと考えています。
- (3) 県全体の身体合併症を呈した急を要する精神科救急については、基本的には富谷にできる新精神医療センターの方で対応できる体制にしたいと考えております。現状の名取の精神医療センターで身体合併症の対応がうまく取れていない状況ですので、そこの対応能力を向上した新しいセンターを富谷に造りたいといった経緯がありました。ただ、病床は南のサテライトの方にも造る予定ですので

で、例えば、あまり深刻ではない初期症状的なものであれば、新しくできる仙台赤十字病院とがんセンターの統合病院と連携体制を構築するなど、様々な形で考えていきたいと思えます。

- (4) (5) ドクターの確保や、反対の意見等もあるということについて、サテライト案のメリット、デメリットもあるかもしれませんが、様々我々が考えていることについて、今、精神診療センターの皆さんとの意見交換をしっかりと重ねている現状ですので、御理解いただけたならば、それをしっかりと皆さんの方に波及させて御理解いただけるよう努めてまいりたいと思っております。

問5 精神症状が不安定な方などが集まる、おれんじ工房という施設が富ヶ丘にあり、その所長さんとお話した時に、グループハウスが必要だと、大きい病院をつかって、そこに精神科をつくっても何にもならないと言っています。普通の人と関わっていきける所がもっと欲しいと言っているがどうか。

答5

精神科の患者さんは、入院中心の精神医療から、地域の中でどのように生活していけるのかといったことを考えた精神科医療の在り方を考えて、具現化できるような新しい精神医療センターをつくってまいりたいと思っておりますので、具体的な姿の提示も含めて、皆さんのいろいろな意見を賜りながら、考えてまいりたいと思えます。

問6

- (1) 明石台の地域は、文教地区とも言える保育園、幼稚園、小中学校、それから介護施設もあるような地域であり、そこに建てる意味というのを丁寧に説明していただきたい。精神科というと、閉鎖病棟というイメージがあり、不安定な方への配慮といったイメージも付きまとうので、どういった病院が来るのかというのをきちんと説明していただきたい。地元住民の理解ということであれば、もっと早くから説明の機会を設けるべきであったのではないかと。今後も、県民、市民、地元住民が理解できるような資料の提示をお願いしたいと思うがどうか。
- (2) 精神保健福祉審議会の方々が反対しているが、きちんと折り合いをつけていただきたい。

答6

- (1) 富谷を含めた地元の皆様方に、丁寧な説明をもっと早めにしっかりとやるべきではなかったかといった御指摘については、真摯に受け止めたいと思えます。今後とも、今日の説明会で終わりでは決してございませんし、また、現状ではサテライトの中身も確定していない状況ですが、徐々に検討が進んだ状況に応じて、適宜皆様方に情報を提供し、改めて説明の場を設け、様々な御不安や御懸念の声にお応えできるよう努めてまいります。

(2) 精神医療センターが移転することによって、名取で長年培ってきた体制が壊れてしまうといったことが、移転反対の大きな趣旨かと受け止めております。それについては、様々な検討、経緯を踏まえて、現在分院（サテライト）を名取に残す形で、皆様の「にも包括」の体制構築を維持できるよう取り組んでまいります。それについても、まだ精神保健福祉審議会の了解を得られていない状況ではございますが、先ほど申しましたように、今、精神医療センターのドクター、看護師の方々と意見交換をしているところですので、議論を前に進められるように努力してまいりたいと考えております。

問7 富谷市の候補地は以前ため池だったが、どのような方法で地盤の調査を行ったのか。通常であれば、ボーリング調査、異物混入調査、人工振動による地質調査などが行われると思うが、何らかの情報をお持ちなのかお聞きしたい。というのは、最近でも北中山団地や仙台市内の団地、伊豆市内の埋立地で杜撰な工事によって建設した住宅が壊れるといったトラブルが頻発している。実際に着工する前にはそれらの調査の結果を住民にお知らせいただきたい。

答7

(県回答) 土地の造成については、区画整理事業の中で、きちんとした工法によって施工されていると県としては伺っております。具体的な建物の配置についても、万全を期すために、盛土部分を避ける形で建設することも可能と考えており、御懸念のようなことがないよう対応してまいります。

(富谷市回答) 候補地を提案した者の責任として、改めて説明させていただきます。これまで別な土地の盛土では、いろいろあったかもしれませんが、今の時代は規制が厳しく、工法もしっかりと管理されているので、全く問題ありません。詳しく説明しますと、調整池があったのは事実ですが、今回の土地は30cmごとにしっかりと締固めて、強度も92%を確保しておりますし、水も上がらないよう全て暗渠で処理しております。ほかの地域の説明会でも御懸念の声があったとのことですので、改めて施工会社の方々等全ての関係者に安全が確保されていることを確認しております。また、全体面積のうち三分の一の約17,000㎡は切土であり、地盤はしっかりしておりますので、そこに建物を建てればまったく心配いりません。ぜひ、この機会に御理解いただきたいと思っております。